（本紙は郵便法第三十一條第一項第二號に基き明治三十五年一月一日内務省認可）

明治二十八年九月十七日　第四千三百八十七號　（定價金二錢五厘）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外遞送には此他後に掲ぐる遞送料を要す）

一號　貳錢五厘〇一箇月　前金五拾錢〇三箇月　前金壹圓四拾五錢〇六箇月　前金貳圓八拾五錢〇一箇年　前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末一切休刊せず）

●前金　一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事を御承知被下度候

時事新報遞送料

一　日本國内並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢

二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一箇月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢

五　露領浦塩斯德、清國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行一付	十三錢	十一錢	十錢五厘

●廣告料●定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の内には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき筈に付豫め廣告依頼者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものわりて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるあるを寡からず偶ま時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は速なる事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は面倒に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に到したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

去年今日

本日は黄海々戰の一期にして吾々國民の最も記憶す可き日なり抑も昨年開戰の始めに際して國民一般の奮慨を聞へば日本の國威を發揚して多年の鬱抑を伸ぶるの時機到來したりとて非常に奮發したる中にも顧みて戰に必を病せしめたるは海軍の實力如何の一事なりき陸軍は最初より自から信ずる所ありて必勝を期したれども海軍に至りては彼我の勢力を比較して臆體と云ひ噸數と云ひ彼に及ばざるの點少なからず重む所は只將士の熟練と勇氣とのみ甚だ不安心に堪へずして誰れ一人として日外したる者みそなければ胸中無限の心配を蔵めて事の成敗を氣遣ひ默して言はず、言へば則ち無謀を敢てするなかれと直に叱に心を痛めたる其有様は若武者の初陣に門出を祝する家人の情に異らず今日は如何、明日は如何と手に汗を握りつゝありし折柄、昨年の今月今日、平壌の勝報に引續き黄海の激戰、海軍大勝利の報知に接したる其時の嬉しさは喩ふるに物なく手の舞ひ足の踏ひを知らざる程の次第にして事の意外に出でたるのみならず戰爭の局面を一變して勝敗の大勢を定めたるは實に此海戰の結果と云はざるを得ず平壌の大勝美事ならざるに非ず最初の一戰に敵の精鋭を殲し て先づ其膽を奪ひ爾來連戰連勝の始を成したるの效績は素より大なれども海戰の一擧殆んど彼の海軍力を破碎し了り敵海を制壓して我進擊の路を開き攻守の勢を一變せしめたる其結果に比すれば自から同日の談に非ず若しも彼の一擧なかりせば朝鮮の國境内に敵の寇兵を見ざるに至るも鴨綠江以北の進軍は容易ならず況んや海を隔つる旅順口威海衛に於てをや其門戸を窺ふも覺束なかりしみどなられん彼の義州附近の耳湖埔に軍發の便を開て第一軍の進軍を助け又花園口榮城灣に第二軍を上陸せしめて敵國双關門の占領を容易ならしめたるは黄海の一戰、敵海を制壓したるの結果に非ざるはなし征清史上に特筆大書す可き日にして一般國民の永久忘る可らざる所なり戰如何は其事實の世に明なるに隨て自から公許あり我兵器の精良、速力の輕快、乗組員の熟練勇氣を以てすれば當日の勝敗決して偶然ならざりしを知る可し今日に至りて世間或は說を作す者あり云く敵の艦隊が既に其列を亂し踏留つて戰ふものは定遠鎮遠の二艦に過ぎず殊に其一艦は艦内に火を失して進退自由ならざるを目擊しながら何故に我炮火を彼の二艦に集注せしむるか若しくは衝擊を試みて其生命を絶つの決斷を取らざりしや、敵艦既に戰鬪に堪へずして逃走するは我進擊の好機會なり然かのみならず彼は失火の爲めに非常の損害を蒙り其走て向ふ所は船渠を有する旅順口なるみと問はずして明白なるに我艦隊は速力の輕快なるにも拘はらず何故に其方向に追擊するか若しくは先廻りして之を要擊し以て其全滅を期せざりしやなど自から種々の批評もあるよしなれども是れは事後無責任の空談にして勝敗の事實を輕重するに足らず我輩は特に外國との戰爭に全局の大勢を決するは一に海軍力の如何に在りとの證明を眼前の事實に得て大に國民の覺悟を促すの利益を認むるものなり今回の戰爭は日本國の威光を世界に發揚して國の地位を高め又隨て四邊の事を多端ならしめたるも自然の數にして之に對しては大に備ふるの必要を生じたり而して一旦事の輩に開くの曉には進んで敵を攻むるの姿勢を取るも退て自から守るの地位に立つも之を決するは海軍の勢力如何に在り若しも去年今日の海戰に其事實を反對にして敵艦を我海上に引受くるの場合ともならんには今年今日の有様は果して如何あらんと自から考へたらば自から大に悟るとなら我國民たるものは今日を紀念として永久記憶する資力の許さゝるより爰に品川法善寺の住職蓬正厳、八ツ山の毛利家に家令たる西山直吉及び品川の森鳴兼吉と國時に四邊に對して有力の海軍を備ふるの必要を一日も忘る可らざるものなり

雜報

○占領地に埋葬せし遺骨處分

陸軍戰時埋葬規則に依れば戰地に於て戰死若くは病歿したるものは適宜埋葬し平和に復したる後之を發掘改葬若くは送還する等のみとなき定めなり左れば今回の戰役に於ても戰死者の遺體を火葬し其遺髮遺骨及び遺物等を本國の親戚緣者へ送越したるは知己戰友等の注意厚誼に出でたるものにして決して條例規則に依りて爲したるものに非ざりしなり然るに過般參謀總長より遼東半嶋に在る占領地總督に我が軍人軍屬の別を問はず又その戰死と病歿とに論なく苟も骨を占領地に埋めたるものは悉く發掘して本國へ送還すべしとの最も難有き命令ありければ同總督は直に埋葬地の各兵站司令部に命じ各々發掘送還の手續をなさしめつゝあり現に復州外一箇所の如きは過日既に發掘を終りたる由なれば今頃は最早内地の所屬留守師團司令部へ到着するならんと云ふ尚ほ金州兵站監部を大連灣に設けし際取調べたる所に依れば全管轄區域内即ち金州旅順蓋平を經て營口に達する兵站線路内と金州柳樹屯を經て大孤山に達する同線路内とに埋葬しある其數は合計三百三十九名にして是等は皆其遺骨を其儘に埋めたるものなれ共此の外火葬の上既に遺骨遺髮を本國に送還し僅に殘灰のみ埋葬したる分凡七十六名あり故に總計は四百十五名にして此の中には將校下士卒より軍屬雇員其他軍夫酒保付等まで一切含み居るものなりと云ふ而して占領地各兵站司令部に於て發掘したるものは夫々荷造りして一旦占領地總督部の手を經て内地各所屬留守師團司令部へ送り居け留守師團及旅團は式に依り之を陸軍共同墓地へ合葬すべしと雖も其遺族の望みに依りては合葬の式は式として行ひ遺骨遺髮等の實物は各大隊區司令部の手を經て下附するの手續迄も既に整ひ居ると云ふ

○品川鐵道馬車會社の由來

東京市中には決して馬車鐵道の敷設を許さずと一時其筋にも内議ありし由なりしが世は飛鳥川の淵瀬の如く變り易き習ひとて現今民間には電氣鐵道の發盛なるに引替へ政府の筋にては却て鐵道馬車の投或論復活し永らく出願の儘に捨て置かれし品川馬車鐵道は今回認可を得て新橋より品川停車場まで鐵道を敷設する事となりたるより世間には種々樣々の取沙汰あり元來此の品川鐵道馬車會社といへるは其根原市人の所謂圓太郎馬車又はガタクリ馬車の進化したるものにして最初の間は此種の馬車を以て新橋以南に營業するもの兩三名あり執れも二三盛宛の馬車を有して新橋品川間を往復し居る其中に會社樣のもの一ツ起りて其名を開濟軒と稱するは木村久次郎、鈴木義作、伊藤銀藏なんど云へる大方は御者より進んで親分株となりたる輩の合體して數盛の馬車を持寄せ共同の營業を始めたるものにして隱然勢力を奮ひたれども當時は警視の取締り等之なき爲め營業の方法甚だ疏略なるのみならず御者別當の如きも多くは寄り集りのものにして車體も亦甚だ見苦しかりし所去る二十二年に至り警視廳の布達ありて車體構造の制限を定められたるが故に開濟軒も最早汚穢極まる舊車盛を以て營業する事能はず左れば之を改造せんには到底資力の許さゝるより爰に品川法善寺の住職蓬正厳、八ツ山の毛利家に家令たる西山直吉及び品川の森鳴兼吉と云へる三人を始めとして都合十二人發起人と爲り資本金十萬圓を以て品川馬車會社を設立し雙方相談の上開濟軒の事に決し雙方相談の上開濟軒を大凡五千圓にて新會社に賣渡へたり皆新會社の株券に書換へたる會社の株主と爲り新規車盛に馬車を以て從前の通りに營業の擴張を圖りつゝありし折柄、昨年の今月今日、平壌の勝報に引續き黄海の激戰、海軍大勝利の報知に接したる其時の嬉しさは喩ふるに物なく手の舞ひ足の踏ひを知らざる程の次第にして事の意外に出でたるのみならず戰爭の局面を一變して勝敗の大勢を定めたるは實に此海戰の結果と云はざるを得ず平壌の大勝美事ならざるに非ず最初の一戰に敵の精鋭を殲して先づ其膽を奪ひ爾來連戰連勝の始を成したるの效績は素より大なれども海戰の一擧殆んど彼の海軍力を破碎し了り敵海を制壓して我進擊の路を開き攻守の勢を一變せしめたる其結果に比すれば自から同日の談に非ず若しも彼の一擧なかりせば朝鮮の國境内に敵の寇兵を見ざるに至るも鴨綠江以北の進軍は容易ならず況んや海を隔つる旅順口威海衛に於てをや其門戸を窺ふも覺束なかりしみどなられん彼の義州附近の耳湖埔に軍發の便を開て第一軍の進軍を助け又花園口榮城灣に第二軍を上陸せしめて敵國双關門の占領を容易ならしめたるは黄海の一戰、敵海を制壓したるの結果に非ざるはなし征清史上に特筆大書す可き日にして一般國民の永久忘る可らざる所なり戰如何は其事實の世に明なるに隨て自から公許あり我兵器の精良、速力の輕快、乗組員の熟練勇氣を以てすれば當日の勝敗決して偶然ならざりしを知る可し今日に至りて世間或は說を作す者あり云く敵の艦隊が既に其列を亂し踏留つて戰ふものは定遠鎮遠の二艦に過ぎず殊に其一艦は艦内に火を失して進退自由ならざるを目擊しながら何故に我炮火を彼の二艦に集注せしむるか若しくは衝擊を試みて其生命を絶つの決斷を取らざりしや、敵艦既に戰鬪に堪へずして逃走するは我進擊の好機會なり然かのみならず彼は失火の爲めに非常の損害を蒙り其走て向ふ所は船渠を有する旅順口なるみと問はずして明白なるに我艦隊は速力の輕快なるにも拘はらず何故に其方向に追擊するか若しくは先廻りして之を要擊し以て其全滅を期せざりしやなど自から種々の批評もあるよしなれども是れは事後無責任の空談にして勝敗の事實を輕重するに足らず我輩は特に外國との戰爭に全局の大勢を決するは一に海軍力の如何に在りとの證明を眼前の事實に得て大に國民の覺悟を促すの利益を認むるものなり今回の戰爭は日本國の威光を世界に發揚して國の地位を高め又隨て四邊の事を多端ならしめたるも自然の數にして之に對しては大に備ふるの必要を生じたり而して一旦事の輩に開くの曉には進んで敵を攻むるの姿勢を取るも退て自から守るの地位に立つも之を決するは海軍の勢力如何に在り若しも去年今日の海戰に其事實を反對にして敵艦を我海上に引受くるの場合ともならんには今年今日の有様は果して如何あらんと自から考へたらば自から大に悟るとなら我國民たるものは今日を紀念として永久記憶する資力の許さゝるより爰に品川法善寺の住職蓬正厳、八ツ山の毛利家に家令たる西山直吉及び品川の森鳴兼吉と國時に四邊に對して有力の海軍を備ふるの必要を一日も忘る可らざるものなり